

## I 目指す学校

### 1 スクール・ミッション

「学問を愛し、知性を高める・体力の向上に努め、健全な心身を養う・人権を尊重し協調及び互助の精神を養う・地域理解を深め、国際的視野に立って社会に貢献する人間の育成を図る」を教育目標とし、学校を中心として一つの“チーム”となって団結して部活動や学校行事に取り組むことで、社会に貢献する生徒を育成します。

### 2 教育目標

#### (1) 学校の教育目標

- ア 学問を愛し、知性を高める。
- イ 体力の向上に努め、健全な心身を養う。
- ウ 人権を尊重し、協調及び互助の精神を養う。
- エ 地域理解を進め、国際的視野に立って社会に貢献する人間の育成を図る。

#### (2) 学校の教育目標を達成するための基本方針

- ア 授業を充実させ、自主的に学習する態度を育む。
- イ 学習活動及び部活動を通し心身を鍛え体力を向上させ、困難にもくじけない不屈の精神を養う。
- ウ 生徒の自治活動を活発にし、自主自立の精神を育む。
- エ 進路指導を一層充実させ、進路実績の向上を図る。
- オ 校内研修を活性化させ、授業力を高め合い、共通理解のもと一丸となって課題解決に当たる。
- カ 学校評価を生かして、進学実績や授業力の向上を図る。

### 3 スクール・ポリシー

#### (1) グラデュエーション・ポリシー

- ア すぐに答えのない課題に対しても失敗を恐れず、協働的に互いの資質・能力を高め合いながら粘り強く挑戦しようとする力
- イ よりよい未来の実現に向けて理想や目標を高く持ちながら、身の回りの小さなことから一つ一つ積み重ねて実現しようとする力
- ウ 文武両立を高度に実現させるために、目的や行動を明確にして時間を有効活用しようとする力
- エ 学校行事や部活動などの様々な教育活動を本気で取り組み、仲間とともに汗をかき、涙を流すことで達成感を味わうとともにチームとして団結できる力
- オ 自分と異なる意見にも謙虚に耳を傾け、多様性を尊重しながら問題を解決しようとする力
- カ 心身ともに健康で、挨拶などを通して人間関係を良好に保ち、仲間を思いやることのできる力

#### (2) カリキュラム・ポリシー

- ア 確かな学力と豊かな教養
  - ・基礎、基本を重視した学力の向上を推進するために、「ICT活用の研究」や校内授業研究を実施し、授業改善を通してわかりやすい授業を実践し、授業の質的向上を図る。
  - ・読書指導により、考える習慣、豊かな感性や情操を身に付けさせるとともに、言語活動の充実を図る。
  - ・自学習慣を定着させるとともに、外部機関と連携した補習を実施し、学習支援の充実を図る。
- イ 主体的な学校行事と母校愛の育成
  - ・雪谷高校生として社会に期待されている姿を考えさせるとともに、身に付けるべき規範意識を明示し、全教員で生活習慣の確立をサポートすることを通して、規律ある生活を定着させる。
  - ・生徒会、委員会活動、学校行事に一生懸命取り組むことで、課題解決能力を養うとともに、母校愛と帰属意識を育成する。

- ・近隣の学校及び関係機関等と連携しながら、体験活動やボランティア等を行い、地域に開かれた学校を推進する。

#### ウ 希望の進路実現

- ・総合的な探究の時間をはじめとする探究活動を充実することで、主体的に考え、行動・表現する力を育成し、キャリア教育の充実を図る。
- ・入学から卒業まで計画な指導を行い、より高い目標に挑戦できる進路指導の充実を図る。

#### エ 思いやりと部活動の活躍

- ・年齢の異なる人との交流やセーフティ教室等を通して自他を尊重する心の育成を図る。
- ・部の目標を明確にし、チームの大切さを主軸にした意図的・計画的な指導を行うことで部活動の活性化を図る。

### (3) アドミッション・ポリシー

本校の目標は、「文武両立」すなわち、知性が高く健康で調和のとれた人材の育成です。このため学業に積極的に取り組み、目的意識をもって学校生活を送ることができる生徒を期待します。

ア 本校への志望動機が明確であり、入学後、積極的に高校生活に取り組む意欲をもつ生徒

イ 将来の進路に対する目的意識がしっかりしており、目標の実現に向けて日々努力できる生徒

ウ 学習意欲が高く、入学後も探究心、向上心により成果が期待できる生徒

エ 中学校で学校行事や部活動等の特別活動に積極的に参加し、入学後はリーダーシップのとれる生徒

## II 中期的目標と方策

### (1) 「学力向上と希望の進路実現」

- ① ICT 機器等を使ったわかりやすい授業を実践することで生徒のやる気を引き出すとともに、進学重点校の授業参観等を通して、大学受験に即応した進学指導力を身に付ける。
- ② 教科として模試の分析会等を通して現状の学力を把握し、生徒の希望が叶えられるよう授業計画や指導方法の改善を図る。
- ③ 自学自習する習慣をつけさせるとともに、外部機関やツールの活用や、学習環境を整備することで学習支援の充実を図る。

### (2) 「チーム雪谷」

生徒・保護者・同窓会・地域・教職員が一つの“チーム”となって団結し、生徒一人一人にきめ細かな指導を行い、すべての生徒の進路希望を実現できる学校を目指す。

### (3) 「地域社会に貢献」

地域に根差した教育活動の推進し、奉仕活動や生徒会活動・部活動を通して連携を深めるとともに、非常時における意識、支援体制を考えさせることで、近隣の学校及び関係機関等と連携を図る。

### (4) 「ライフ・ワーク・バランスの実現」

所属する教職員が雪谷高校で教員生活を誇りと自信をもって送れるように、自らの家庭や自身の時間を大切にし、人生を楽しみながら仕事ができる職場にする。

## III 今年度の取組目標と方策

### (テーマ)

本校のモットーである文武両立をより一層実りあるものとして全教職員で取り組むとともに、進学指導研究校として進学実績向上に向けての意識を高め、模試分析や授業評価などの客観的データをもとに、授業や年間授業計画の改善を図る。

### (1) 学校経営・組織マネジメント

- ① 学校経営計画、分掌計画に沿って、職層に応じた具体的な目標を立てて計画的に課題解決に取り組む。
- ② 主幹教諭・主任教諭、分掌主任を中心とした、組織的で効果的な進行管理と学校運営を行う。
- ③ 若手教職員等を対象に、主幹教諭や主任教諭の経験を活かした職場内OJTを推進する。特に、教員相互の授業参観を通して学び合う機会を増やし、若手教職員等の育成を図る。

- ④ ライフ・ワーク・バランスの実現に向けて仕事の効率化や進め方の改善に努め、教職員の仕事と家庭の両立を応援する。

## (2) 学習指導

- ① 基礎・基本を重視した学力の向上、アクティブ・ラーニングなど主体的・対話的で深い学びに向けた授業の改善に努める。
- ② PC 端末を有効的に活用した授業を定期的実施することで、探究活動を促進させる。
- ③ 週末課題等を通して家庭学習時間を、学年＋1 時間を確保する指導の工夫を行い、家庭学習の定着を図る。
- ④ 模試などの客観的データを各教科で分析し、指導計画に取り入れ実践することで、学力向上を図り、生徒の希望の進路を実現させる。
- ⑤ 日常の個別指導や補習、長期休業日中の講習（基礎と受験対策）を計画的に実施し、生徒への学習指導の強化に努める。
- ⑥ ビブリオバトル、探究活動、読書強化月間、図書館の利用促進などを通して言語教育活動を推進する。
- ⑦ 政治・経済において、政治や選挙について正しい知識・理解や公正な判断力など政治的教養を育む主権者教育を推進する。また、1 学年総合的な探究の時間において、教科「人間と社会」を実施する。

## (3) 生活指導

- ① 挨拶の励行、授業規律の徹底、身だしなみや交通規則など、雪谷高校生としてあるべき姿を考えさせるとともに、身に付けるべき規範意識を明示し、全教員で規律ある生活の確立を図る。
- ② 生徒会等を中心とした体育祭、文化祭及びクラスマッチの運営を通して、帰属意識を高める。
- ③ 全校応援及びその準備を通して、母校愛を育成する。
- ④ 校内研修の充実といじめアンケート・体罰防止アンケートを活用し、体罰防止といじめ0を実現する。

## (4) 進路指導

- ① 生徒の進路実現に向けて、3 年間の「キャリア教育推進計画（学習・生活・進路）」を計画的に実施する。また、キャリア教育の充実を図るため、学習・生活・進路の3 領域について、総合的な進路指導を行い、生徒個々の進路希望の実現に取り組む。
- ② 学年との連携強化を図った進路指導部を中心とした進路指導を組織的に推進する。
- ③ 職業的自立に向けた教育プログラムの実施と主権者教育の充実を図ることを通して、社会人・職業人として生活していくために必要な能力を身に付けさせる。
- ④ 探究活動を推進することを通して、自ら考え表現する力を育成するとともに、上級学校でのより深い学びへと繋げていく。
- ⑤ 年二回の全員面接を通して、生徒の心の変化を捉えるとともに生徒の目標を明確にさせる。
- ⑥ 進路ガイダンス、補習・講習、受験スタートアップ講座と高大連携による出張授業の実施を通して、学問の魅力を伝え、上級学校への進学意欲を喚起する。
- ⑦ スタディキャンプや勉強合宿を通して、学習計画の作成や自主学習の重要性を認識させ、継続的な学習習慣を定着させる。

## (5) 特別活動・部活動

- ① 生徒が主体となる体育祭及び文化祭、生徒が主体的に活動する委員会活動に向けた工夫を図る。
- ② 部活動の参加率の一層の向上と活動内容の質の向上に努める。そのために、教員が生徒の活動場面に立ち会い、指導を行う場面をもち、活動の成果を向上させる。指導に当たっては、体罰や不適切な指導にならないよう、充分に人権に配慮した指導を行う。
- ③ 部活動に参加することを通して、チームや人を大切にする心を育むとともに、目標に向かい、結果を追求する精神を育成する。
- ④ 「Sport-Science Promotion Club」等を中心として、部活動の活性化と技術を向上させる。

## (6) 安全・健康指導

- ① 成功体験を積むことを通して自己肯定感を高めさせる。
- ② 保健講話を活用して、自身の体を大切にすることを理解させる。
- ③ 教員の校内研修、SC との全員面接、ふれあい月間を通して、体罰・いじめの防止をする。
- ④ セーフティ教室、薬物乱用防止教室、ネット被害防止指導、災害避難訓練等の防災教育、食

育指導等を実施し、生徒の安全と健康、防災に対する意識を高める。

⑤ 地域関係機関との連携を図り、生徒の登下校時の安全確保に努める。

⑥ 自転車に関する交通安全教育の実施を通して、交通規則の遵守、交通マナーの向上を図り、自他の生命を尊重させる。

(7) 募集・広報活動

① 公開講座の実施及び施設開放を行うことを通して、地域との連携を強化する。

② 学校ホームページ、公式 Twitter 等を活用して情報を発信するとともに、生徒の母校（中学校）訪問を実施することを通して、本校の教育活動をPRする。また、中学校等からの本校への要望について情報収集し、中学生等に学校説明会等で情報を提供する。

③ PTA、同窓会、学校運営連絡協議会等を通じ、本校への期待、意見や要望を聞き取り、教職員及び生徒一丸となって反映させる。

④ 学校ホームページの更新を定期的実施し、学校ホームページの充実を図る。

(8) 地域との連携

① 朝の地域清掃や地域ボランティアを通して、地域に貢献する心を育成する。

② 地域や近隣の学校と連携することを通して、自助・共助の精神を育む。

(9) 施設設備管理・経営企画室運営

① 運動施設の安全管理の徹底、校内設備の定期的な点検を計画的に行う。

② 自律経営推進予算の執行状況について適切に管理する。

#### IV 数値目標

(1) 学校運営

○若手教員学習会 10回以上

○校内研修 3回

○研究授業 20回以上

(2) 学習指導

○生徒の自主学習時間 学年+1時間以上

○長期休業日中講習 60講座以上

○授業満足度 80%以上

○英語検定（実用英語検定） 準2級以上 80名以上

○GTZ（学力基準）各教科 A1 10人以上、 B1 120人以上

(3) 生活指導

○遅刻生徒（1日） 8人（0.01%）

○特別指導対象件数 0件

(4) 進路指導

○4年制大学進学（現役合格者） 80%以上

○進路決定率 90%以上

○大学入学共通テストの受験者数 90%以上

○大学入学共通テスト各教科の平均点 全国平均以上（全科目）

○国公立大学、難関大学合格者数 25名以上、GMARCH合格者数 80名以上

(5) 特別活動・部活動

○部活動加入率 95%以上

○特別活動満足度 90%以上

○部活動満足度 90%以上

○関東大会以上の大会への参加 2部

(6) 体力向上

○体力テスト合計得点 全国平均以上

(7) 募集・広報活動

○ホームページ更新 250回以上

○学校見学・学校説明会参加者 5,000名以上

○応募倍率 推薦 3倍以上 学力選抜 1.5倍以上

(8) 経営企画室経営

○第3四半期、予算執行率 90%以上